

平成26年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成26年4月22日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語・算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。本校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面だと捉えています。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

① 学力調査結果と分析

カテゴリー	全国平均との比較	学力調査の分析(傾向や特徴)
国語A	全国平均正答率を下回っている。	・全ての問題において正答率が全国平均を下回っており、基礎的・基本的内容の定着を図る必要がある。特に言語についての知識・理解、書く力を身につける必要がある。
国語B	全国平均正答率を下回っている。	・全ての問題において正答率が全国平均を下回っており、特に書く問題では無解答率も高く、自分の考えを書く力に課題がある。
算数A	全国平均正答率を下回っている。	・全国平均を少し下回っており、特に図形の問題の正答率が低く、苦手意識があることがわかった。 ・単位量や円周を式に書いて答える問題では、正答率が全国平均を上回っていたが、無解答率も高く、二極化していることがわかった。
算数B	全国平均正答率を下回っている。	・応用的な問題では、問題文を読んで具体的にイメージすることが苦手であり、数量や図形についての知識・理解を活用する力が不足していることがわかった。 ・正答率が全国平均を下回り、無解答率も高かった。

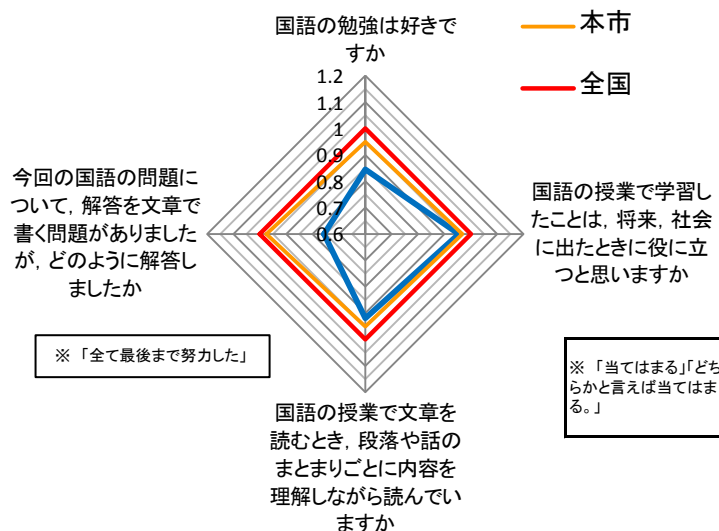
② 学校における学習状況に関する調査結果と分析

・国語の学習が将来に役立つことはわかっているが、学習に意欲的に取り組めていないことがわかる。学習中に意欲的に取り組むことができるように、学習展開を工夫する必要がある。

・学力調査の結果からも、書くことに関して無解答率が高くなる傾向があり、文章を書くことに抵抗感を持っている児童が多いことがわかる。そのため、自分の考えを書いて整理してから説明させたり、授業の終わりに振り返りを書く活動を位置付けたりして、書くことを授業に意図的に多く取り入れる必要がある。

・読むことに関しては、言葉の知識・理解を増やしていくために、毎朝の読書活動、図書委員会を中心とした図書コーナーの充実、図書ボランティアの活用等々、読書活動を積極的に推進していく必要がある。

本校と本市の対全国比(全国を1とする) — 本校



2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

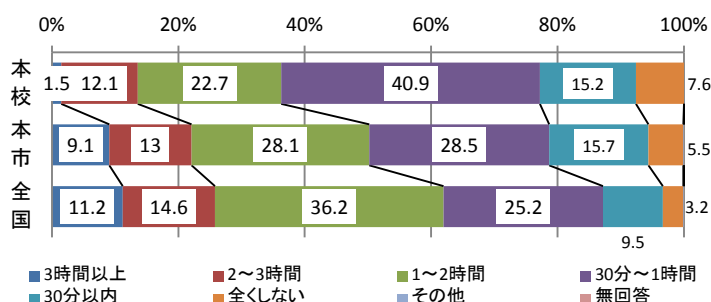
① 家庭学習習慣に関する調査結果と分析

学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾や家庭教師を含む）

普段、一日当たりどれくらいテレビやビデオ・DVDを見たりきいたりするかという質問項目では、8割の児童が4時間以上と答え、全国平均を大きく上回り、3時間以上と答えた児童を合わせると9割以上の児童が1日にテレビを見る時間が多いということがわかった。

1日当たりのゲーム時間も1時間以上と答えた児童が約7割だった。

宿題はきちんと行っているが、宿題だけにとどまり、家庭での学習時間が全国平均よりかなり下回っている。家庭学習に課題があるといえる。



② 生活習慣等に関する調査結果と分析

学校行事や体験活動等、日々の実践を通して、よりよい人間関係を築きながら、充実した学校生活を送っていることがわかった。

そこで、将来の夢や希望をもってそれぞれの夢を実現させるために具体的な目標設定を行い、行動に結び付け、学力も伸ばしていけるように指導していくことが有効であると考えられる。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

◎ 自分の考えを書くこと、話し合うことの習慣化

- ・学習時間に自分の考えを整理してノート等を書く時間を必ず取るようにする。また、書いたことに関しては、必ず評価するようにし、書く内容の質を高めるようにする。
- ・隣り同士やグループで話し合う学習場面をできるだけ取り入れ、全員が主体的に学習する場を確保する。

◎ 漢字の読み書きについては練習を繰り返し行う。また、日常から辞書を活用させ、言葉の意味や使い方を身につけさせるようにする。

- ・希望する子どもには、給食準備時間中に個々人の課題に応じた学習を行い、苦手な事項の克服を行う。
- ・子どもひまわり学習塾を活用し、指導員と連携を図りながら個に応じた課題を行うことができるようにする。

○ 国語、算数の過去問題、アシストシート、活用力を高めるワークを関連単元に応じて解くように時間設定をする。

② 家庭生活習慣等に関する取組

◎ 家庭学習の必要性についての意識の向上

- ・家庭学習チャレンジハンドブックを活用して、子どもに家庭学習の具体的な取り組み方を指導する。
- ・保護者への協力を依頼して、家庭学習の充実を図っていく。

◎ 宿題の量・質の見直し

- ・学年の実態に合わせた適切な宿題の量を課す。（国語と算数を必ずさせるようにするなど）
- ・自学の力が伸びるような宿題を課す。（学年の実態に応じて自学ノートを作り、学校全体の取組として行う）

○ 全国学力・学習状況調査の課題と取組等の保護者への周知

- ・家庭教育学級や学年学級懇談会等で結果と取組を説明し、家庭と連携協力する体制を整える。